

ひとくちめ

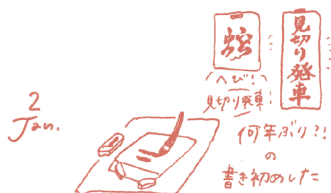
ひとくちめは、でっかいほうが幸せだと思う。たとえば、ショートケーキを食べるとき。真っ白なクリームの山のでっぺんに、つやつやの真っ赤な苺が載っているのを目の前にすると、「食べたいー」という気持ちは一瞬でピークに達する。そんなとき私は、苺とでっかいクリームをまとめて、ひとおもいに頬張る。

「んふうふう〜！」と、うっとり、鼻から抜ける息と一緒に、ちょっと動物みたいな声が漏れてしまうあのときが、いちばん幸せだ。

もちろん、別の流儀があることも理解している。「早く食べ終わるのはもったいないから」と少しずつ分けて食べ、苺を後の自分にとっておいてあげるのも、それはそれで賢いのだろう。ただ、その理性が前に出ているあいだには、決して味わえない感情や本能があるのだ。

ひとくちめというのは、登頂寸前の山であり、完成して倒す直前のドミノであり、サビ直前のドラムのフィルインである。その、いちばん気持ち盛り上がっているときに一気に頬張るのだ。「ゆっくり味わおう」「後にとっておう」と考えながら食べ進める場合には、あの恍惚とした表情は、決してできない。何を頭の良い生き物のふりをしているんだ。人間だって、欲望まみれの動物のくせに！ こんなに大事な「ひとくちめ」という局面で、我慢してどうする!! 人生は短いのだ。許されているなら、誰にも止められないのなら、やりたいことからやり、食べたいものから食べるべきだと、私は思う。

……が、これは全くもって人に押し付けようだなんて思っていない。あくまで、真っ先に苺とでっかいクリームのひとつを贅沢に頬張ってしまうがめつい自分を正当化するためのエッセイだ。でもほんとうに、口の中いっぱい広がる好物に反応して、ビリビリと全身にしあわせを感じられるので、いつもしあわせは少しずつ・長く味わう、我慢してとっておく、というタイプの人は、ぜひ一度でっかいひとくちめに挑戦してみしてほしい。



空港で本を読む

何度か空港に行ったことがあるけれど、実は飛行機に乗ったのはそのうち1往復だけで、じゃああとは何をしに行ったのかと聞かれれば、「本を読みに行った」とか「考え事をしに行った」になると思う。

羽田空港第1ターミナルの5階にあるスターバックスがお気に入りで、そこに行くためだけに、たまに空港に行く。滑走路側の一面が窓になっていて、その窓沿いの席に座ると、あちらへ行ったりこちらへ帰ってきたりする飛行機たちを、満足するまでじっくりと眺めることができる。遮るものがひとつもない、でっかい空とともに。

スーツケースを持ったひとたちの合間を抜けてここにたどり着くまでには、オリエンタルだったりエキゾチックだったり、とにかく色んな香りがして刺激

的だ。空港は日本の玄関とも言われる。玄関先に来た友達に対して「ウチ上がつてく？」と聞くのと同じように、玄関は敷地で言えばウチだが、まだウチガワではない。入り口であり出口でもあって、日本以上、世界未満だ。そうであるならば、私がまさに息を吸って吐き生きているこの玄関から一歩外に踏み出せば、もっとずっと広い世界が広がっている。ここは、日本は、私は、世界のほんの一部ではない。だからといって、別にいらぬ存在というわけでもない。ただここに、在るだけだ。それ以上でも、それ以下でもない。空港は、そういうことを思わせてくれる場所だ。どこでもドアをいままさに開く前ののび太くんも、その魔法の扉を目の前にして、これからこの玄関の外に広がるであろう景色と未知なる冒険に期待を膨らませ、自分の小ささを想ったりしているのだろうか。

ここへ到着するのは何故かいつも夕方になることが多くて、それは、だんだんと傾いてくる太陽がぴかーんと鋭角に眼に飛び込んでくるくらいの刻だ。窓



に臨む人たちの顔面はきらきらした橙色に、これでもかというくらいびかびかと照らされて、もはやそれぞれが発光しているように見える。

仕事デキるんだろなあ、英語もペラペラなんだろなあ、という風貌の店員さんからドリンクを受け取り、席につく。おお、いつ見ても絶景。面だ。滑走路が、面で見られるのってすごい、と思う。何度来ても、初めて来たみたいに感動する。窓沿いではない席の人も、自然と皆光合成をするひまわりのように滑走路側に身体をむけている。何かに集中している人も、息継ぎをするみたいに、たまにちらちらと窓を見るときもなしに見ている。垂れていた頭を上げると同時に、特に意識していなくても、自然と窓のほうにまなこが吸い寄せられるのだ。

持ってきた本を開くと、白いページがクリーム色に染められて、美しく、眩しい。ひとくち喉を潤して、それからは集中して読む。キリの良いところまで読み、ふと目線をあげると、1羽の飛行機が西陽を受けながら地上を勢いよく右から左へと走り、その車輪が地面から離れた！と思うと、すうっと空へ吸い

込まれていった。UFOみたい、と思う。機体のどの部分もバタバタ動くことなく、沈黙したまま空へと吸い寄せられる。それはもはや鳥にたとえるより、UFOにたとえた方が近いような気がした。

その様子を眺めていると、自分の外側に開かれている世界と同様に、自分の内側にも無限の世界が広がっているように感じる。自然と自分の心も読書に対して開かれていくような感覚になるのだ。普段、自宅や電車の中で本を読んでいるときには、その物語が創作の中にしか存在しないと感じてしまい、目の前の現実と比べて落ち込むことがある。でもこうして空港へ来て、遠くの空に消えてゆく飛行機に想いを馳せると、本の中の世界はこの世のどこかにきっとあるだろうな、という気がしてくる。ここではないどこかに、必ずある。そして、それは私の内側の世界にもちゃんと存在していると信じることができる。

1冊読み終わる頃には、とっぴり日は暮れており、空は向こう側まですうっと透き通った昏い藍色に移り変わった。あちらこちらに無数のライトが灯って



いる。管制官になりたかった友達のことを思い出した。今頃どこかの光の下で UFO たちを操っているのだろうか。いや、管制官じゃなくてグランドスタッフだったような気もする。どっちだったけな。ああそうだ、そういえばパイロットになりたい友達もいたな。

本を閉じた私は、再びスーツケースを転がす人の合間を抜け、真っ直ぐ帰路についた。

今日を終わらせられない病

まずい。午前2時30分。今日も惰性で起きている。別に夜を徹してやりたいことがあるわけでもなければ、たっぷりお昼寝をしちゃったから眠れないのよってわけでもない。私はこれを、意味のない夜更かし、通称「今日を終わらせられない病」と呼んでいる。だいたいこの病は、今日やれたことが少なすぎる、あまりにも情けない、もったいない一日を過ごしてしまった、という日に発症する。このまま寝ると、なんとなく負け越しちゃったような気持ちになるということを本能で察知しているのだ。だから、根本的に治療するには、昼間のうちに何か充実感を得ておくしかない。発症してしまったら最後、「強制的にシヤットダウンする」か「飽きるまで起きてやる」しかないのだ。

今日は、後者を選んだ。まあ、明日大きな予定もないので、気が済むまで起きていよう、と思った。そうと決めたら何か映画でも見るか、と思った瞬間、



ふと以前見たライブカメラのことを思い出した。

クリスマスの時期に、本場ヨーロッパのクリスマスマーケットってどんなに煌びやかなんだろうと思い、YouTubeで関連動画を調べていた。どれどれ、と画面をスクロールしていると、「LIVE @ Santa Claus Village」というタイトルの動画が目にとまった。試しにクリックしてみると、そこにはクリスマスを目前にぴかぴかひかる電飾で彩られた街並み、暖色の街灯に映る、まさに今降っているであろう雪の影と地面の白、その上を楽しそうに歩きながらこちらに向かって手を振る子どもとその家族が映っていた。ヨーロッパに行ったことがない私にとっては、それはまるで絵本の中の世界みたいで、たった今この地球のどこかで起きていることだとはには信じられず、咄嗟に一度動画を閉じる。半分疑いながらも一度動画を開くと、もうそこにはさっきの子どもと家族はおらず、また別のニンゲンがカメラの画角の中を自由に歩き回っていた。「ほんとじゃん」とひとり自室でつぶやいて、ごろんと床に転がって、あちら側からは見えないとわかっていながら、画面の中の通り過ぎてゆくニンゲンたちに手を振り返した。

あのときのわくわくを思い出した私は、（今は深夜だし、どこか昼間のライブカメラでも見るか）と思いYouTubeで検索していた。すると、人気の動画としてナミブ砂漠のライブカメラが話題になっているのを見つけた。ナミブ砂漠は日本と7時間ほど時差があるらしく、今は19時半といったところだった。陽が暮れてきた砂漠の中の水溜まりが映し出されていて、別にそれ以上でもそれ以下でもない。取り立てて面白い目まぐるしい変化があるわけでもなく、自然の風景が広がっているだけ。たしかに気持ちの良い大自然だが、何故そんなに話題になっているのかわからなかった。

と、そのとき、

「あ!! なんか狐みたいなのがきた!!」

「飲んでる飲んでる! 水を!! ゴクゴク飲んでる!!」

見事に動物がフレームイン。こちらを一瞥^{いちべつ}したあと、しっかりと美味しそうに水を召し上がっていた。調べてみるとジャッカルという生き物らしい。そう、どうやらこのライブカメラは野生の生き物が入れ替わり立ち替わり飲水してくるということだ。この日はジャッカルが何度かやってくる



だけで、他の動物は見られなかったが（ずっと釘付けだったわけではないので見逃しているだけかもしれない）、調べたところによると、ダチヨウやチーター、馬なども御用達らしい（なんでも、ダチヨウの水の飲み方が面白いとか）。ちなみに、ごく稀にニンゲンが遊び半分で現れることがあるらしく、その際はコメントが「HUMAN!」で溢れ、盛り上がりを見せるそうだ。

そうしてこの日は、新たな動物が来るのをぼんやりと待ちながら画面を見たり、目をつむって鳥の声や風の音だけを聞いたりを繰り返して、気づいたら私は眠りについていた。

これを書いている今、日本は19時20分。ふと気になって久しぶりにナミブ砂漠を覗いてみたら、オリックス6頭の溜まり場になっていた。どうも、楽しい呑み会中失礼します、お邪魔します。

入れ歯

街で見かけた、その後が気になる人。

例えば、大量のバラで出来た花束を剥き出しで持って早歩きをしていたスーツの男のひと。あれは、まさにたった今プロポーズをしに行くところだったのだろうか。はたまた、まさかプロポーズを終えて、上手くいかずに急いで帰宅するところだったのだろうか。緊張しているとも残念だったとも取れるその陰しい表情からは、彼の気持ちはわからなかった。

気になる。

夕方の渋谷駅でヨギボーを抱える……というかもはや抱きついて駅の改札に向かう女のひと。それ、どこまで持っていくのでしょうか。タクシーで行くに



は遠すぎたのかな。ネットで買う気にはならなかったのか。店舗で買ったとして、配送は断ったのだろうか。本当にその二人三脚みたいな感じで家まで帰ったのか。あ、もしかしてジモティーか何かで受け取ったとか？

気になる。

大きな、8と1の数字のバルーンを膨らませた状態で持ち運ぶ女子高生。お誕生日パーティーだろうか。それは膨らませてから持ち運ぶしかなかったのだろうか。18歳のお祝いなのか、それとも81歳のおばあちゃんのお祝いなのか。81歳のおばあちゃんがこの風船で盛大に祝われているところを想像して勝手にハッピーな気持ちになった。

気になる。

地下鉄銀座線のホームドアの手前、総入れ歯が落ちていた。綺麗に、ポツン

と落ちていた。持ち主は、拾うのを諦めたのだろうか。電車に乗り込んだ後に落ちていることに気づき、拾おうとした瞬間に電車が発車してしまったのだろうか。そもそもこれは口から直接落ちたのか。持ち主の口の中は、今どうなっているのだろうか。

気になる。

これはすべて、同じ一日の中で見かけたこと。

世界は、四角い画面の中よりもずっと不思議で、ずっと面白いのかもしれない。



耳に足らないOngoro新聞!!!

ちょーっと気になること

みんな...わざわざ話すほどではないけど
気になることがあるの、皆さんに共有しますね...



キャリーケース、
車に載せてお手がかゆい
あああ...

えー
どうする...?



そ?

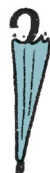
電車で隣り
の人にのっちゃん
デカのハ虫が
とまってる...
起す...? そのまま?
うーん...



目上の方との
連絡、
終了らせ方に
自信がない
え...リアクション
だけでいい...?



足の裏を見て!
って言うて、皆
「ポー」かわいい
「ヤピッ!」



雨で傘がサグサグに
していた。
戸所有の喜びはいっぱい...
自転車も充電器も...



あや...?

シフォンケーキ
って、物質だけ
見たら、ほぼ「空気」
にお金払ってる...?

うーん... うーん
気になる...

